

献辞

経済学部長 安田 俊一

川東輝弘先生は、1971年に京都大学経済学部をご卒業後、大阪市立大学大学院経済学研究科を修了されて1980年に本学（当時は「松山商科大学」）経済学部へ赴任、36年の長きにわたって教員生活を続けられました。2016年3月に定年退職されると共に、名誉教授の称号を授与されています。このたびこうして、川東先生の名譽をたたえる退職記念号が発行される運びとなったことは、大変喜ばしいことであります。

川東先生は主として農業経済や農業政策史を中心にご研究され、単著5冊、学術論文95本他、大変多くの業績を残されています。1991年には京都大学から博士号を授与されています。歴史系の研究者として、第一次資料を丹念に精査され、それらをまとめる研究スタイルを貫いてこられました。

近年は「日記」に主たる研究領域を移され、高島亀太郎（元宇和島市長・衆議院議員）、岡田温（元帝国農会幹事）の日記を発掘、整理されて、愛媛県出身で日本・愛媛の歴史に重要な役割をはたしたこの2人について、それまで誰も知らなかった事実を次々と明らかにされていきました。この業績は特筆すべきで、松山大学の知的資産となるものです。高島亀太郎と岡田温の2人の研究については、文字通り「世界一」の研究者として、川東先生ご自身も歴史に足跡を残されたと思います。

さらに現在は名誉教授として、松山大学の歴史研究にテーマを移され、「三人」と称される、新田長次郎（温山）翁、加藤恒忠（拓川）翁、加藤彰廉先生（初代校長）の資料を精査される日々を送っておられ、研究成果を本論集に発表し続けておられます。

大学での教育面では、日本経済論、日本経済史などの講義を受け持たれ、長

年講義をされてきました。ゼミの卒業生も数多く、退職記念最終講義の際には全国から教え子が集まり、最後の講義に耳を傾けました。

また、大学運営の面では、大学院経済学研究科長（2008年～2010年）、経済学部長（2003年～2005年）、法人評議員（2001年～2005年、2011年～2013年）などの学内の要職を務められ、学部長時代、研究科長時代には中国のいくつかの大学と交流協定を結ばれたり、ダブル・ディグリー制度を導入されたりするなど国外の研究機関との連携にご尽力されました。

この退職記念号には、本学の教員だけでなく、学外の研究者からの原稿も寄せられ、先生のご人脈の広さ、お人柄が拝察できます。

多年にわたる川東先生の大学、学部、そして学界へのご貢献に改めて敬意を表しますと共に、今後のますますのご健勝を祈念するものです。

川東先生、本当に長いあいだ、大変お世話になりました。ありがとうございました。これからもお元気でご研究をお続けください。